北海道新聞　2024年（令和6年）6月27日（木曜日）

広葉樹利用、育成の意義探る

旭川で市民と研究者らが議論

シラカバの利活用について研究者と語り合ったサイエンスカフェ

旭川と近郊の家具業者や研究者らでつくる一般社団法人白樺プロジェクトは、シラカバなどの広葉樹の利用や育成の意義について専門家と参加者とが語り合うサイエンスカフェを旭川デザインセンターで開いた。

広葉樹の持続的な利活用について考えてもらおうと、「あさひかわデザインウイーク」に開催している。今年は22、23日に行った。

23日に登壇した北大の吉田俊也教授（造林学）は、広葉樹の育成をテーマに、「自然に生えるシラカバは育成のハードルが他の広葉樹よりも低い」と説明。シラカバの活用で「他の木を持続的に利用できる」と強調した。

参加者から「広葉樹を育てる人が少ないと、活用も進まないのでは」と質問され、吉田教授は、「育成技術を支えるため、補助金や低コストにできる仕組みが必要」と語った。

製材会社で働く士別市の中野百合華さん(29)は「木の欠点を受け入れつつ、それを生かした製材ができれば活用も進むはず」と話した。

（和泉優大）